

防災訓練の結果の概要（個別訓練②）

1. 訓練の目的

本訓練は、「再処理事業所 再処理事業部 原子力事業者防災業務計画」に基づき実施する個別訓練であり、訓練を繰り返し行うことにより、手順書等の適用性や個々の知識・対応能力の習熟を目的としている。

2. 実施日および対象施設

(1) 実施日

2020年3月6日（金）～ 2020年11月30日（月）

(2) 対象施設

再処理施設

3. 実施体制、評価体制および参加人数

(1) 実施体制

訓練ごとに実施責任者を定め、実施担当者が訓練を行う。

(2) 評価体制

定められた手順書等に基づき、各班の対策活動が適切に実施できるかを実施責任者が評価した。

(3) 参加人数

「添付資料」のとおり。

なお、実施責任者は訓練評価を行うため、参加人数には含めない。

4. 防災訓練のために想定した原子力災害の概要

【再処理事業部対策本部】

(1) その他必要と認める訓練

①代替電源供給対応訓練

地震発生により全交流電源が喪失した状況を想定した。

②使用済燃料貯蔵プールへの注水対応訓練

使用済燃料貯蔵プールの冷却機能が喪失した状況を想定した。

③冷却コイルへの注水対応訓練

安全冷却水系（崩壊熱除去）の機能が喪失した状況を想定した。

④屋外ホース展張対応訓練

安全冷却水系（崩壊熱除去）の機能が喪失した状況を想定した。

⑤貯蔵室の換気対応訓練

貯蔵室排風機が全台起動不能の状況を想定した。

⑥水素掃気用圧縮空気対応訓練

安全圧縮空気系に圧縮空気を供給する機能が喪失した状況を想定した。

⑦通信設備用発電機対応訓練

地震発生により全交流電源が喪失した状況を想定した。

【全社対策本部】

(1) その他必要と認める訓練

①原子力事業所災害対策支援拠点設営訓練

原災法第10条事象が発生し、原子力事業所災害対策支援拠点施設（以下、「支援拠点」という。）への要員派遣および支援拠点の設営等が必要となる状況を想定した。

②全社対策本部運営訓練

警戒事態該当事象が発生し、原子力災害対策本部の設置および事業部対策本部との情報共有等が必要となる状況を想定した。

③即応センター運営訓練

警戒事態該当事象が発生し、E R C対応が必要となる状況を想定した。

④オフサイトセンター設営訓練

原災法第10条事象が発生し、オフサイトセンターへの要員派遣および派遣要員による初動対応等が必要となる状況を想定した。

5. 防災訓練の項目

個別訓練

6. 訓練結果の概要

各個別訓練の結果の概要は「添付資料」に記載のとおり。

7. 訓練の評価

各個別訓練の評価結果は「添付資料」に記載のとおり。

8. 今後の原子力災害対策に向けた改善点

各個別訓練における改善点および今後に向けた改善点は「添付資料」に記載のとおり。

〈添付資料〉

個別訓練②の概要

以 上

個別訓練②の概要

【再処理事業部対策本部】

その他必要と認める訓練

(1) 代替電源供給対応訓練 (実施回数: 77回、参加人数: 延べ482名)

概要	実施体制 ①実施責任者、②実施担当者	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に向けた改善点
・要員の現場配置、電源車の出動、起動、ケーブル敷設、接続作業を実施	①統括当直長または当直長 ②当直員	良	特になし	今後も継続して訓練を行い、習熟を図る。

(2) 使用済燃料貯蔵プールへの注水対応訓練 (実施回数: 4回、参加人数: 延べ15名)

概要	実施体制 ①実施責任者、②実施担当者	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に向けた改善点
・要員の現場配置、使用資機材の配置場所の確認、消防ホース敷設作業を実施	①燃料管理課長 ②燃料管理課員	良	特になし	今後も継続して訓練を行い、習熟を図る。

(3) 冷却コイルへの注水対応訓練 (実施回数: 17回、参加人数: 延べ94名)

概要	実施体制 ①実施責任者、②実施担当者	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に向けた改善点
・要員の現場配置、消防ホース敷設、接続作業を実施	①統括当直長または当直長 ②当直員	良	特になし	今後も継続して訓練を行い、習熟を図る。

(4) 屋外ホース展張対応訓練 (実施回数: 4回、参加人数: 延べ60名)

概要	実施体制 ①実施責任者、②実施担当者	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に向けた改善点
・水供給用消防ポンプの運搬操作、屋外ホースの展張および接続作業を実施	①防災業務課長 ②運転部員、廃棄物管理課員、ユーティリティー施設課員、安全ユーティリティー課員、前処理課員、燃料管理課員、分離課員、精製課員、脱硝課員、ガラス固化課員、分析課員、防災施設課員	良	特になし	大型車両の誘導のため各要員に配布するホイッスルが不足したため、必要量を確保し対象要員に配布する。

(5) 貯蔵室の換気対応訓練 (実施回数: 3回、参加人数: 延べ20名)

概要	実施体制 ①実施責任者、②実施担当者	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に向けた改善点
・要員の現場配置、ルート確保・ケーブル敷設および送風機操作作業を実施	①統括当直長または当直長 ②当直員	良	特になし	今後も継続して訓練を行い、習熟を図る。

(6) 水素掃気用圧縮空気対応訓練 (実施回数: 7回、参加人数: 279名)

概要	実施体制 ①実施責任者、②実施担当者	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に向けた改善点
・要員の現場配置、コンプレッサーのホースの敷設、起動/停止、接続作業を実施	①統括当直長または当直長 ②当直員	良	特になし	今後も継続して訓練を行い、習熟を図る。

(7) 通信設備用発電機対応訓練 (実施回数 : 7回、参加人数 : 延べ118名)

概要	実施体制 ①実施責任者、②実施担当者	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に向けた改善点
・要員の現場配置、発電機の起動/停止、ケーブル敷設、接続作業を実施	①統括当直長または当直長 ②当直員	良	特になし	今後も継続して訓練を行い、習熟を図る。

【全社対策本部】

その他必要と認める訓練

(1) 全社対策本部運営訓練 (実施回数 : 5回、参加人数 : 延べ239名)

概要	実施体制 ①実施責任者、②実施担当者	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に向けた改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・全社対策本部内および事業部対策本部との情報共有ならびに事業部対策本部への支援を実施 ・オフサイトセンター派遣要員の体制、役割およびオフサイトセンターにおける情報収集、全社対策本部との情報共有を実施 ・プレス文の確認、提出および模擬記者会見を実施 	①全社対策本部事務局副班長 ②全社対策本部要員	良	<p>2019 年度総合訓練での模擬記者会見に係る課題検証として以下の改善を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記者会見対応時の発話の心得に関するガイドを作成した。 ・記者会見対応時の体制、役割、準備資料等について手順を定めた。 	今後も継続して訓練を行い、習熟を図る。

(2) 原子力事業所災害対策支援拠点設営訓練 (実施回数 : 1回、参加人数 : 延べ17名)

概要	実施体制 ①実施責任者、②実施担当者	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に向けた改善点
・除染テントの設営、可搬式発電機の設置操作および除染用高圧洗浄機の設置操作訓練を実施	①全社対策本部事務局副班長 ②全社対策本部要員	良	特になし	今後も継続して訓練を行い、習熟を図る。

(3) 即応センター運営訓練 (実施回数: 4回、参加人数: 延べ44名)

概要	実施体制 ①実施責任者、②実施担当者	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に向けた改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・ E R C 対応に関する基本動作および情報フローに基づく事業部のプラント状況、事故の進展予測、事故収束対応戦略等の情報収集を実施 ・ 社内模擬 E R C プラント班を設置して、 E R C 備付け資料および図表類を活用した、 E R C プラント班に対する情報共有を実施 ・ 事業部対策本部から入手した事故・プラント状況等について、を 10 条確認会議および 15 条認定会議において、 E R C プラント班に対する情報共有を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ① 全社対策本部事務局副班長 ② 全社対策本部要員、 E R C 対応要員 	良	<p>2019 年度総合訓練での即応センター運営に係る課題検証として以下の改善を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ E R C 対応活動場所を事務本館へ変更した(インターネット TV 会議から統合原子力防災ネットワークへ変更) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬 E R C プラント班へ事故・プラントの状況、進展予測、事故収束戦略等について、情報に不足なく、タイムリーに情報提供出来ていないことが課題として抽出されたため、今後、改善策を構築し次回の訓練までに検証する。 ・ 模擬 E R C プラント班から C O P の提出と、 C O P 等を用いて事故状況、戦略等を説明するよう要求されたが、即応出来ていない事が課題として抽出されたため、今後、改善策を構築し次回の訓練までに検証する。 ・ 模擬 E R C プラント班との情報共有において、 E R C 備付け資料を活用できていない事が課題として抽出されたため、今後、改善策を構築し次回の訓練までに検証する。 ・ 今後も継続して訓練を行い、習熟を図る。

(4) オフサイトセンター設営訓練 (実施回数: 3回、参加人数: 延べ40名)

概要	実施体制 ①実施責任者、②実施担当者	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に向けた改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・オフサイトセンター派遣要員の体制、役割の確認および当該センターに配備されている設備および機器の立上げ操作方法の確認を実施 ・オフサイトセンターへの要員参集、情報共有データベースによる情報入手(プラント状況、事故の進展予測など)、情報入力および全社対策本部への連絡訓練を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①全社対策本部事務局副班長 ②全社対策本部要員、オフサイトセンター派遣要員 	良	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・発災時に必要なオフサイトセンター派遣要員数を構築しマニュアル等に反映する。 ・オフサイトセンター派遣要員の参集方法や移動手段を構築しマニュアル等に反映する。 ・今後も継続して訓練を行い、習熟を図る。